

修士論文審査基準

(平成 24 年 10 月 25 日教授会決定)

静岡文化芸術大学大学院
文化政策研究科

本研究科の修士論文審査における合格者の評価基準は S、A、B、C の 4 段階とする。最低合格ライン (C 評価基準) を設定する「第一次評価基準」と S 評価、A 評価、B 評価のための「第二次評価基準」の 2 段階の基準を設定する。

1. 第一次評価基準

C 評価 (合格) を得るためには、以下の項目すべてを満たすことが求められる。査読、口頭試問において、評価者はこれらの項目について「合」または「否」の 2 段階の採点を行う。審査委員会においては各評価者の評価結果を考慮し、最終的に「合」「否」の判断を行う。

項目	評価のポイント
1. 実践的研究テーマの設定	研究テーマは、現代的な意義を持っているか。テーマの設定は、社会における課題の解決に貢献しようとする問題意識に基づいているか。
2. 専門知識の修得と先行研究の吟味	専門知識が十分に修得されているか。先行研究の整理は適切になされているか。引用・参考文献の内容は適切で過不足はないか。
3. 論理展開の妥当性	論理構成に無駄はないか。論理展開が散漫になっていないか。首尾は一貫しているか。データや事例など論拠を明確に踏まえているか。
4. 結論の妥当性	問題設定のうち、何が論証され、何が論証できなかったのが明確であるか。結論は、最初に述べた問題設定に対応して述べられているか。強引に結論を導き出していないか。
5. 整った形式	適切な字数でまとめられているか。章や節など目次の体裁は整っているか。目次を読むだけでも内容が伝わるか。注記は適切であるか。引用・参考文献の表示は適切か。必要な場合は図表を用いてわかりやすく説明しているか。

2. 第二次評価基準

第一次評価基準を満たした論文について、以下のチェックポイントをもとに総合的な評価を行い、最終的な S、A、B、C の評価を確定する。

<チェックポイント>

- 研究テーマの設定に独自性があるか？
- 調査手法や論証の過程に評価すべき点があるか？
- 先行研究の調査が必要十分にできているか？
- 結論に新しい知見が提示されているか？
- 口頭試問での確な受け答えがあったか？